

◆今庄町誌編さん委員会

福井県今庄町誌

〔A5判、「ぎょうせい」刊、

頒布価格

円〕

このほど発刊された『今庄町誌』は、文部省文化財保護委員会主任調査員の杉本寿氏が監修者となり、編さん主任の京藤勝治氏を中心に大がかりの執筆陣容で、約五年を費やして完成した労作である。

内容は第一編「郷土の自然」、第二編「郷土の歴史」、第三編「宗教と民俗」、第四編「今庄町の文化財」、第五編「むらの歴史」、第六編「今庄と文学」に分け、学問的な諸成果をふまえながら、一般読者にも容易に理解し得るよう詳述している。

特に第二編では、第一編の自然環境の特異な地域性を背景として、原始古代から現代まで、町全体の歴史の流れを実証的に考察するとともに、第五編で、湯尾・宅良・今庄・鹿蒜・堺各地区の特性を浮きぼりにしたことはなほだ興味ぶかい。

また第六編で、詩歌や文学作品（古典

・近現代）のなかの今庄について紹介したことは、こうした市町村誌編さんのうえで、新機軸を打ち出したものとして注目したい。

すでに『今庄村誌』（昭4年刊）・『南条郡誌』（昭9年刊）など地域に関係したものがあがるが、現在の町域全体を対象としたのは今回が最初であり、その点でもきわめて貴重な著作として高く評価すべきであろう。

（三上記）